

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

207号

2018年12月24日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 国交省の説明会始まる

国交省は昨年から何度かオープンハウス型説明会を開いてきましたが、国民の同意を得られていないので、新たに説明会を企画しています。

板橋区では

1月11日（金）15時～19時

於 成増アクトホール

1月12日（土）13時～17時

於 セブントウン小豆沢

の2回です。常盤台住民には成増アクトホールが便利でしょう。ただ時間帯が適切とはいえないし、いつものオープンハウス型の展示と説明であって、自由に討議できる教室型の説明会は、区からも要請しているはずですが、今回もするつもりはないようです。

12月20日、品川区では初めての教室型説明会がありました。品川区は国交省と長期間交渉し、13カ所で開くことの確認を得たとのこと。区が国交省に強く交渉すれば教室型説明会は実現するようです。品川区内在住者しか入れず、報道機関さえも閉め出されたなか、あるアパート経営者が「不動産価値が下がるというよりも、お客がこなくなるのが問題。家賃を保障してくれるのか」と詰め寄ったのに対し、国交省は説明できなかつたそうです。

この様子はNHKが21日、首都圏ネットワークで報道しました（下記URL参照）。

<https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/201812/21/0022923.html>

板橋区も早く教室型説明会の開催を実現させてほしいと思います。

○ ときわ台駅「常盤小径」 下の植栽は？

駅の展示コーナー「常盤小径」の下は、30～40cmはばの地面があって、マリーゴールドが綺麗に植えられていました。

ところが今は幾本かの苗木らしきものが、枯れそうな状態で見られるだけで、マリーゴールドは無くなっています。

それもそのはずで、ここは朝日がわずかに射すだけで、北向きの日陰の場所。日向を好む花が元気に咲くはずはないのです。

先日、東武鉄道の社員さんと茶話会をしました。地元の人が植栽の面倒を見て貰えないか、という気持ちが伝わってきました。駅員さんに花の世話をする余裕はないようですし、たとえば田園調布の駅前のバラは、街のバラ愛好家達が世話をしていると聞いています。

常盤小径は常盤台の歴史を語ってくれる文化的施設と言って良いものなので、その下の植栽に住民が奉仕してあげたいのは山々です。

残念ながら公園のはなづくりの会は、公園の花壇だけで精一杯な状況なので、常盤小径のための愛好会的なグループを新たに作ってはどうかと思います。お気持ちのある人はお知らせ下さい。

○ 「お散歩マップ」来月配布

「お散歩マップ」改訂版は来年1月に完成し、各戸に配布する予定です。

○ 「200号記念合冊号」まだあります

2003年から2018年までの「まちづくりニュース」合冊版を10月に出版し、1部1000円でお分けしています。「ギャラリー服部」の受付か、事務局にご連絡くださればお届けします。

話し相手を探しています

Fさんは昭和八年生まれの八五歳です。小学生の頃、常盤台に住んでいて、上板橋小学校に通っていました。区画整理で四丁目の方に引越され、奥さんの関係で福島に引越したのですが、原発事故の影響でまた引越しを余儀なくせざるを得ませんでした。

少年時代を過ごした常盤台二丁目に住みたいと思ひ、今年越して来ました。友達の消息が気になっていきます。恐らく同年の方は何人も常盤台とその周辺にご健在ではないかと思われませんが連絡の取りようがないのです。Fさんはぜひ昔のことなどを語り合いたいそうです。

原発輸出失敗

イギリスへの日本企業の原発輸出が、安全対策費が二兆円から三兆円に高騰したこともあって断念するという。安倍政権が自国での大事故やコントロール不能にもかかわらず、成長戦略の一つに原発輸出を掲げたことに違和感を持っていた国民は多かったと思うが、案の定、イギリスのみでなく他の国への輸出もすべて失敗してしまった。もはや日本は原子力に頼ることを諦め、再生可能エネルギーへ転換を促進するしかないだろう。

少しでもこういう話を取りあげると、まちづくりニュースに政治の話はない方が良いでしょう？という意見が出てくる。政治をタブー視して国民を無知のまま支配したいという側に加担しないよう望みたい。

元号はまだ必要？

尺度というものは国内では絶対同じ物でなければなりません。更に、国際化の進んだ現代では、外国とも共有されることが当然求められてくるのです。

私たちが子どもの頃、まだ尺貫法が普通で、肉も刃で買い、足袋の寸法は七文半とか十文三分、畳の長さは六尺と言う世界でした。メートル法となつてしばらくは不便でしたが、変えた為には便利になったことは計り知れないのではないのでしょうか。今の日本人にとってメートルやグラムは世界に通じる大切な尺度です。

時間も同じで、江戸時代の時刻を墨守していたら、航空会社はやっていけないし、大混乱を起すことでしょう。時間の単位を少し延ばして考えれば、日本だけに通じる元号というものが、どんなに不便で特異なものか、代替わりのある今日、もつと議論すべきではなかったかと思ひます。天皇制とは別にこのことは考えてもよいのではないのでしょうか。

テレビ朝に常盤台登場

テレビ朝日「じゅん散歩」という番組で、一月二九日朝、常盤台が取りあげられました。十五分ぐらいの短かさで、景観を守る会にも資料を求めに来たので期待していましたが、それほど深く紹介されてはいませんでした。

二十日ごろ、昔の分譲時の地図片手に歩き回っている十人ほどのグループを見かけました。駅舎の改装などで、都市計画的興味から常盤台を訪れる人も増えることでしょうか。

常盤台公園のはなづくり

例年だと今頃、ケヤキやトウカエデの落葉に混ざって、特徴のあるアオギリの舟のような実が花壇のあたりに散らばっているのですが、今年は見当たりません。

そう言えば、今年のあの大風で、あのアオギリは倒されてしまったのでした。たった一本でも無くなってしまつたと、その存在の大きさが後で実感されました。

有るときは有りのすさみに憎かりき
無（亡）くてぞ人は恋しかりけり

という歌を覚えてくれたのは親でしたか、先生でしたか……

常盤台は都会ではあるけれど、大和町や清水町に比べると、けっこう緑が豊かなせいか、鳥なども種類・数が多いようです。清水町の人はスズメも見ないと言っていました。常盤台では群をなしているし、栄養も良さそうに太っている、と批評した人もいます。冬だから羽毛を膨らましてる姿を太っていると見たのかもしれない。

野生動物に餌付けすることは慎まねばなりません。メジロだけはミカンの果汁をついばみに来る様子や、二羽が毛玉のように寄り添って居眠りする可愛い姿が見たくて、冬の時期だけミカンを供給してしまっています。

皆様 どうぞ良いお年を！